

CASBEE[®]新潟 | 評価結果



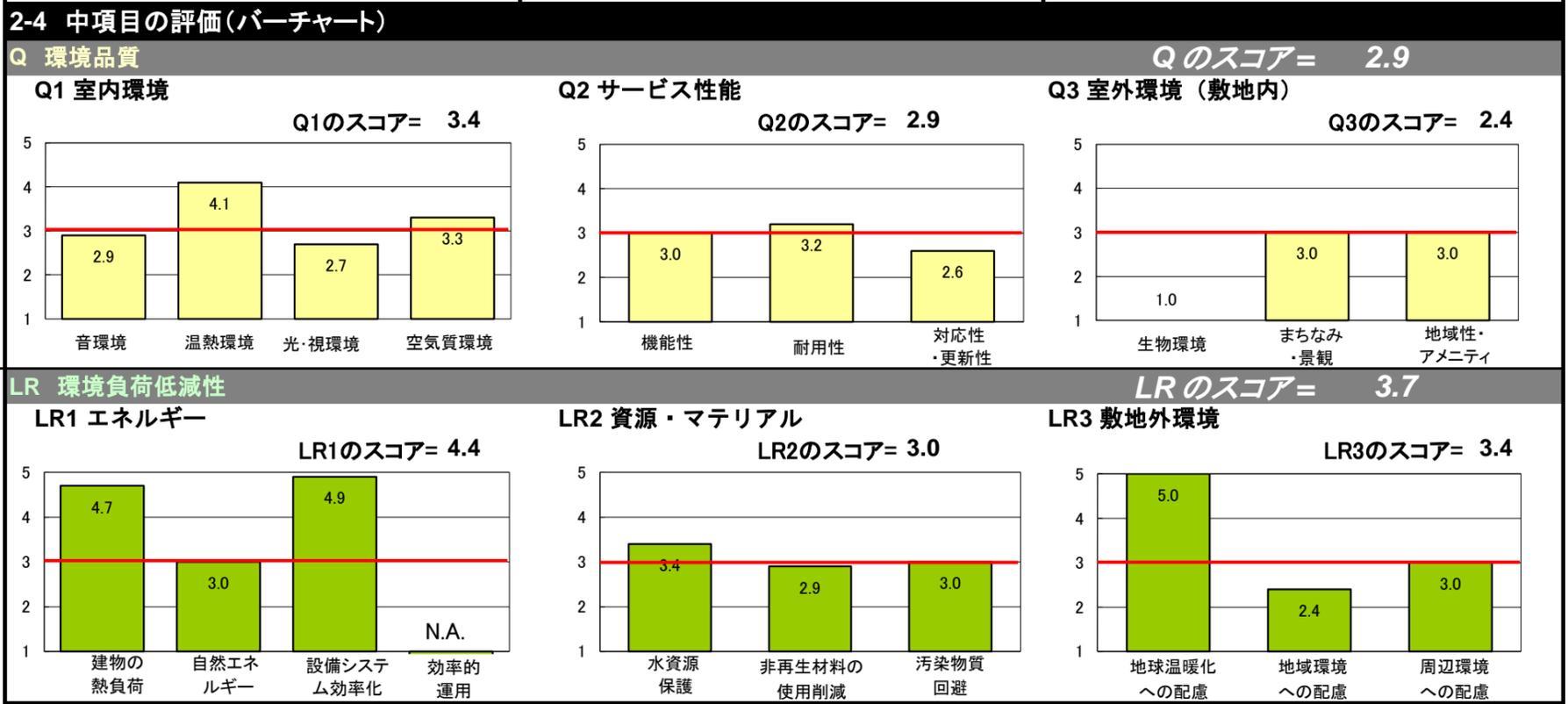
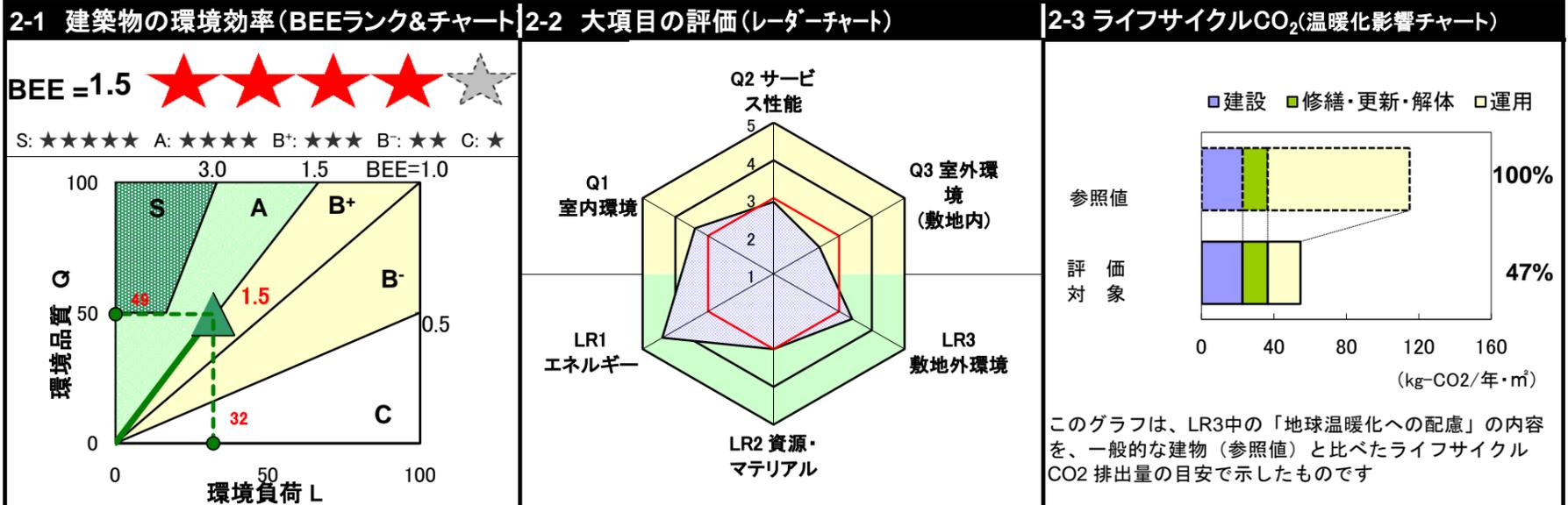
■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要					
建物名称	(仮称)東新潟駅前ビル				
建設地	東区 中島二丁目144-37のうち				
用途地域	準工業地域、法第22				
建物用途	物販店, 集合住宅,				
竣工年	2012年9月 予定				
敷地面積	1,237.45 m ²				
建築面積	433.97 m ²				
延床面積	2,520.30 m ²				
階数	地上9F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日					
2. CASBEE新潟の評価結果					
		A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{49}{32} = 1.5$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 2.5		バリアフリー	Q2.1.1.3	1.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.1		維持管理	Q2.1.3	3.5
			更新性	Q2.3.3	3.0
			耐震・免震	Q2.2.1	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 2.0		信頼性	Q2.2.4	3.2
			雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.9		建物の熱負荷抑制	LR1.1	4.7
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.3		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮, 快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
1. 長寿化への取組み → 車イス対応の駐車スペースを確保した。 2. 地震への取組み → 建築基準法に定められた耐震性を有する。 3. 大雨への取組み → なし 4. 自然エネルギーへの取組み → 将来的に太陽光発電パネルを設置出来るようにしてある。 5. 自然環境への取組み → アスファルトの下は、再生クラッシャーを使用する。 6. 水と緑を活かす取組み → 敷地内に中木を12本植え、緑を生かした外構とした。 7. 新潟のまちなみへの取組み → なし					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟 | 評価結果内訳 |

■使用評価マニュアル：CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2008年版 使用評価ソフト：CASBEE新潟(v.1.2)



2-5 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>東新潟駅前の活性化を図る為、テナントと住居の複合ビルとして計画した。住居部分は断熱材を厚くし、冷暖房の省エネルギー化を図った。また、将来的に太陽光パネルを屋上に設置できるようにし、自然エネルギーの利用を考えた計画とした。</p>	<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>住居部分は屋上面及び外壁面の断熱材を厚くし、冷暖房エネルギーの抑制を考えた。照明は共用部にはLEDを用い、消費電力を抑えるようにした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>テナントと入居者のエレベーターを分け、動線を分離した。住居側のエレベーターは緊急時にはストレッチャーが入る大きさを採用した。外壁はタイル貼りとして補修期間をなるべく長くするようにした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>将来的に太陽光発電パネルを屋上に上げられるように、構造的に荷重を見込み設計した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>外部の舗装の下地はリサイクルクラッシャーを使用する。現場発泡ウレタン吹き付けは、特定フロンを使用しないものを採用する。</p>
<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物を隣地建物より出来るだけ離して計画した。これにより、日陰阻害を抑えるよう考慮した。また、ビル風の影響範囲も敷地内で納めるようにした。敷地内の駐車場はコンクリートブロック塀を2m立ち上げ騒音を配慮した。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される